



Title	米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係（毒ガス問題）第一次移送(2)(在シアトル総   外務省外交史料館レファレンス番号：nd)
Author(s)	-
Citation	平成25年度外交記録公開(1)No.1   公開日：平成25年10月30日   外務省外交史料館管理番号：A'.3.0.0.7-1(205)   CD・DVD番号：H25-001
Issue Date	
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43778">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43778</a>
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

在シアトル總

Handwritten signatures and initials at the top left of the document.

アメリカ局長  
参事官  
北米第一課長

秘密標記 (赤色)

(報) 第 296 号  
昭和 45 年 6 月 2 日

外務大臣 殿

在

シアトル  
総領事代理

神他にコピーする

- 要処理
- 首席事務官
- 南方
- 渉外調査
- 漁業
- 空
- 学協力
- 通調整
- 査
- カナダ
- 局業務



(件名) 神毒ガスに接するシアトルタイムズ社説 (報告)

引用公・電信 日付・番号 6月1日付往電沈才295号に接し

5月26日付当地の夕刊 The Seattle Times 社説に

「神毒ガス論争」と題し、神毒ガス問題を取り上げ

電旨次の通り報じているので何等ご参考とご報告

付属添付  付属空便 (行)  付属空便 (DP)  付属船便 (貨)  付属船便 (郵)

本信送付先:  
本信写送付先:  
配付送:

申し上げを  
ムジャクソンと院議員がニクソン大統領に対し、軽え向なく米口  
を横断して輸送を小こい子危険物(商業的、軍事的危  
険物とも)すべりの取極い30)を全面的再検討する為の  
大統領直属の task force を任命するよう要請したこ  
は正しかった。  
「議議員のこの要請は、神毒ガスのN.W搬入計画  
(これは中止を小こい子になったが)に関連して行なわれたもの  
ある。  
「社会ガス」という言葉を聞いただけで人々の怖ろしが  
だから神毒ガスをめぐって国民が大騒ぎしたのも無  
理はない。  
2. し、レの地にも高速度道路や鉄道(行なわれてい子)を供して無数の危険  
物輸送上(接)し、公共の安全について十分を考慮が松れ  
いない。

州依や地方の依拠によってある程度公共の線安全が規程されていいるが、安全規則は連邦レベルでの大折・高折を問題と見ることが必要である。

一旦はN.W.に貯蔵が使用していた神奈ガス及び mustard gas に関する予定通り毒ガスのシトル港—オレゴン州間の鉄道輸送が凍結されていたり、当地の急進的過激派がサボタージを起したかもしれないと「シ」戦軍の結果は多少正しかったであろう。

3. 毒ガスのN.W.への輸送に反対してきた人々がある者は、政府は、この毒ガスをとにかく破壊すべきであるの要求に変わろうとしている。

これは口鼻の安全という重大問題を巻き起こしている。

毒ガス製造・貯蔵の目的は勿論戦争の際に敵側が同じようなものを使用するを思い止まらせることにある。

おまけ抑止力を保持した例は、史上沢山あり。才二次

大戦中、ナチスドイツも連合軍も大量の化学兵器を保有していた。

しかし結局どちら側もそれを使用しなかった。これは抑止力が働いたからである。

~~戦時下の政府~~戦時下の政府の基本的性格が過去半世紀の間に大きく変わったので、今の政府は抑止力を最早予必要に感したと考へるべき根拠はない(従っておまけ抑止力は今でも必要である)

アメリカ局長  
参事官  
北米一課長

秘密標記 (赤色)

(報) 大第 298 号  
昭和 年 月 日  
昭和45年6月5日

外務大臣 殿

在

在 シアトル  
前橋 総領事代理

- 要処理
- 首席事務官
- 渉外課
- 漁業
- 航空
- 科学協力
- 連絡調整
- 調査
- 力子
- 局業務



(件名) 沖縄毒ガスに関する新聞報道(報告)

引用公・電信  
日付・番号 6月2日付往信才 296 号に因り

6月3日付 P.I 紙は アラスカの沖縄毒ガス搬入候補地の実地  
調査が終了したことに因り、要旨次の通り報じられている。後

記事切抜を添え、何卒ご参考迄に報告申し上げます。

付属添付  付属空便 (行)  付属空便 (DP)  付属船便 (貨)  付属船便 (郵)

本信送付先：  
本信写送付先：  
配付送：

1. 陸軍に於て アラスカ Kodiak の沖縄毒ガス貯蔵候補地の実地  
調査が終了。調査班は 15 日間に調査報告をとりまとりし  
様。
2. Keith H. Miller アラスカ州知事は本件毒ガスのアラスカ搬入  
に因り法廷で争うことも辞さずとの態度をとっている。
3. Mike Gravel アラスカ選出上院議員はマクナッソン議員  
提議の有償軍事援助法案に対する修正案(沖縄毒  
ガス撤去の費用を支出を禁止する法案)を支持するに  
意をいっている。
4. しかし、かくの如く反対の動きが強まっているにも拘らず、政  
府は沖縄毒ガスのアラスカ搬入の可能性があると  
している。
5. 本件沖縄毒ガスは、沖縄の施政が日本に委譲される  
1972 年迄には沖縄毒ガスを撤去せざるを得ないとしてい  
る(なお  
この点について当館は P.I 社に向い質したところ、  
毒ガスを沖縄毒ガスを撤去せざるを得ないことについて  
北米一課長

意欲 之小てい子が、何時迄に撤去しをせしめずないかについて  
 当地之時(原)能職 之小てい子、同社でもよく分らぬまゝ記述  
 した由)

( )  
 ( )  
 ( )  
 ( )  
 ( )  
 ( )